



公益財団法人 サントリー芸術財団 サントリー美術館 107-8643 東京都港区赤坂 9-7-4 東京ミッドタウンガーデンサイド Tel: 03-3479-8604 Fax: 03-3479-8644

No. sma0031

(2017.11.16)

サントリー美術館

「寛永の雅 江戸の宮廷文化と遠州・仁清・探幽」展 開催

会期：2018年2月14日（水）～4月8日（日）



白釉円孔透鉢 野々村仁清 一口

江戸時代 17世紀

MIHO MUSEUM

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2018年2月14日（水）から4月8日（日）まで、「寛永の雅 江戸の宮廷文化と遠州・仁清・探幽」展を開催します。

17世紀初め、江戸幕府が政権を確立すると戦乱の世は終わりを告げ、泰平の時代がおとずれました。時を同じくして文化面でも新たな潮流が生まれます。それが寛永年間（1624～44）を中心に開花した「寛永文化」です。寛永文化は「きれい」という言葉に象徴される瀟洒な造形を特徴とし、当時の古典復興の気運と相まって、江戸の世に「雅」な世界を出現させることとなりました。

寛永文化の中心は京都にあり、なかでも学問・諸芸に造詣の深かった後水尾院は、長く絶えていた儀礼や古典文芸の復興に心を尽くしたことで知られています。特に和歌は朝廷を象徴する芸能に位置づけられ、その洗練された優美さを追求する姿勢は、和歌のみならず、多くの美術作品にまで影響を及ぼすことになりました。

一方、幕府はそうした公家衆の動向に注目し、時には意見を異としながらも、

公武間の文化的な交流は盛んに行われました。京都のサロンを主な舞台としたその交流は、さまざまな階層の人々を巻き込み、公家、武家、町衆といった垣根を越えて、新しい時代にふさわしい美意識を醸成し、共有されていったのです。

本展ではこのような近世初期の「雅」を担った宮廷文化と、それと軌を一にして生まれた新時代の美意識が、小堀遠州、野々村仁清、狩野探幽などの芸術に結実していく様子をご覧いただきます。

《 展示構成 》

第1章 新時代への胎動—寛永のサロン



東福門院入内図屏風 六曲一双 江戸時代 17世紀

徳川美術館 ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

元和元年（1615）、江戸幕府は政権を確立すると、朝廷に対してさまざまな働きかけを強めます。

そのなかで、元和6年（1620）の二代将軍・徳川秀忠の娘、東福門院（1607～78）入内などの融和政策を通じた幕府の莫大な経済的援助は、京都を中心とする寛永文化を開花させる大きな要因になりました。

このような当時の状況を背景に、多くの文化人たちがサロンを形成し、それが鎖のように連なって公家、武家、町衆、文人といった身分を超えた交流がなされていました。そして、このサロンを通じた交流のなかで、新たな時代に適応した美的感覚が醸成され、寛永文化が育まれていったのです。

ここでは寛永文化の成立期にあたる17世紀初頭、慶長・元和期から寛永初めにかけての文化動向を概観します。

【主な出品作品】

・鹿下絵新古今集 和歌巻断簡 本阿弥光悦書・俵屋宗達画 一幅

江戸時代 17世紀 サントリー美術館

・伊勢物語図色紙「水鏡」 近衛尚嗣書・伝 俵屋宗達画 一面

江戸時代 17世紀 サントリー美術館

・重要文化財 東福門院入内図屏風 四曲一双 江戸時代

17世紀 三井記念美術館

・東福門院入内図屏風 六曲一双 江戸時代 17世紀 德川美術館

・赤楽茶碗 銘 熟柿 本阿弥光悦 一口 江戸時代 17世紀 サントリー美術館

第2章 古典復興—後水尾院と宮廷文化



源氏物語絵巻 住吉具慶 五巻のうち第三巻

江戸時代 17世紀

M I H O M U S E U M

後水尾院（1596～1680）は、その長い生涯のなかで朝廷と幕府の関係に配慮しつつ、宮廷文化の再興に力を注ぎ、寛永文化の中心人物として活動しました。

なかでも幕府が慶長20年（1615）に公布した「禁中並公家中諸法度」によって、和歌が宮廷を象徴する芸能に位置づけられたことを受け、後水尾院は率先して和歌をはじめとする古典文学の研究を進め、宮廷周辺では古典復興の機運が高まります。

この古典復興と深く関わった当時の宮廷歌壇では、素直でなだらかな言葉の流れや、わかりやすい平明な趣向が重視されており、その美意識は和歌のみならず、宮廷文化のさまざまな分野にも向けられました。例えば宮廷周辺で制作された歌仙絵や物語絵に見られる、親しみやすい優美な雰囲気にその一端をうかがうことができるでしょう。そして、その作品の多くは武家が受容したものであることが示すように、宮廷の外にも「雅」の世界の享受者は広まっていったのです。

ここでは寛永文化の大きな源泉となった後水尾院と宮廷文化の世界をご覧いただきます。

【主な出品作品】

- ・後水尾天皇像 妙法院宮 堯恕法親王 一幅 江戸時代
17世紀 京都・泉涌寺
- ・源氏物語絵巻 住吉具慶 五巻のうち第二・三巻 江戸時代
17世紀 MIHO MUSEUM
- ・小袖屏風・黒縞子地斜格子菊吉祥文模様絞縫腰巻 二曲一隻 江戸時代
17世紀 国立歴史民俗博物館
- ・冠形大耳付水指 修学院焼 一口 江戸時代 17世紀 滴翠美術館

第3章 新たなる美意識

1 小堀遠州



小井戸茶碗 銘 六地蔵 一口 朝鮮時代 16世紀
泉屋博古館分館

小堀遠州（1579～1647）は寛永文化を代表する茶人であるとともに、伏見奉行を長く務め、多くの建築造作も指揮した江戸幕府の有能な官僚でもありました。

こうした遠州は、幕府によってもたらされた泰平の世にふさわしい、武家の教養としての「大名茶」を目指すべく、さまざまな新機軸を打ち出しました。なかでも、和歌をはじめとする宮廷文化の「雅」を茶の湯に導入したことは、藤原定家に私淑し、御所造営にも関わった遠州ならではのこととして注目されます。

さらに遠州は宮廷文化のほか、東山文化的な唐物、桃山文化的な侘び、そして最新の中国、朝鮮、ヨーロッパの作品にいたるまで、新旧さまざまな道具を自らの美意識で選別し、新たな茶の湯の世界を切り開きます。それは優美で均整のとれた形や明るい色彩を特徴とするもので、後に「きれい寂び」と評されるようになりました。

ここでは遠州が茶会で実際に使用した茶道具や、記録から想定されるものも含めて、遠州の「きれい寂び」の世界をご紹介します。

【主な出品作品】

- | | |
|----------------|------------------------------|
| ・瀬戸肩衝茶入 銘 飛鳥川 | 一口 江戸時代 17世紀 湯木美術館 |
| ・高取半筒茶碗 | 一口 江戸時代 17世紀 三井記念美術館 |
| ・小井戸茶碗 銘 六地蔵 | 一口 朝鮮時代 16世紀 泉屋博古館分館 |
| ・古銅象耳花入 銘 キネナリ | 一口 南宋～元時代 14～15世紀
泉屋博古館分館 |

II 金森宗和と仁清



色絵花輪違文茶碗 野々村仁清 一口

江戸時代 17世紀

サントリー美術館

色絵の技法を大成し、京焼随一の名工として名高い野々村仁清（生没年不詳）は、正保4年（1647）ごろ御室仁和寺の門前に窯を開き、御室窯の活動を開始します。そして、この開窯にあたって指導者の位置にあったのが、遠州と同じく寛永期に活躍した茶人、金森宗和（1584～1656）です。

宗和は飛騨高山城主の金森家に生まれ、後に茶人として京都で活動しました。宗和は武家や町人をはじめとして、公家とも交流を持ち、彼らに自身のプロデュースした御室焼を斡旋していました。その「宗和好み」をたどってみると、意外なことに、落ち着いた色調と、独創的かつ洗練された造形を持つ作品群に行きつきます。それらはまさに「きれい寂び」のような寛永の美意識を継承・発展させたものと言っていいでしょう。

その後、宗和の死没を境に御室窯は多彩な色絵を中心とする窯へと展開します。今日、仁清を代表する華麗な色絵陶器は、実は宗和の指導を離れた後に江戸や地方の大名の好みによって作られたものが多いのです。

ここでは初期の「宗和好み」の作品から華麗な色絵陶器にいたるまで、仁清の多様な作例をご覧いただきます。

【主な出品作品】

・唐物写十九種茶入	野々村仁清	十九口	江戸時代	17世紀 泉屋博古館分館
・信楽写兎耳付水指	野々村仁清	一口	江戸時代	17世紀 三井記念美術館
・白釉円孔透鉢	野々村仁清	一口	江戸時代	17世紀 MIHO MUSEUM
・色絵鴛鴦香合	野々村仁清	一合	江戸時代	大和文華館
・色絵花輪違文茶碗	野々村仁清	一口	江戸時代	17世紀 サントリー美術館

III 狩野探幽



桐鳳凰図屏風 狩野探幽 六曲一双 江戸時代 17世紀
サントリー美術館

狩野探幽（1602～74）は、狩野派の絵師である狩野孝信の長男として京都に生まれました。幼くしてその画力を徳川家康・秀忠に認められ、本拠地を江戸に移し、幕府の御用絵師として活躍します。徳川政権による新たな時代にふさわしい美を探究したその生涯は、まさに寛永文化の展開に重なるものでした。

今日、探幽が巨匠とされる理由の一つは、豪壮な桃山様式にかわって、大きな余白と淡彩を主体とする独自の様式を確立し、狩野派の画風を一変させたことがあります。それは幕府の後ろ盾もあって、江戸時代を通じてあらゆる流派に影響を与えました。

一方で、探幽の絵画は後水尾院に称賛されるなど、宮廷文化からも評価されるものであったことは見逃せません。さらにその優美で平明な画趣は、探幽と交流のあった小堀遠州の「きれい寂び」に通じるものとも言えるでしょう。すなわち、探幽の新様式は、武家や公家といった枠組みを越えて共有されていた、最先端の「時代の美」だったのです。

ここでは、探幽の寛永期から晩年に至るまでの画業を振り返り、時代が求めた新しい美を追体験していただきます。

【主な出品作品】

- ・重要文化財 **名古屋城上洛殿上段之間襖繪 帝鑑図「高士渡橋」** 狩野探幽
四面 寛永11年(1634) 名古屋城総合事務所
- ・桐鳳凰図屏風 狩野探幽 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・若衆観楓図 狩野探幽 一幅 江戸時代 17世紀 個人蔵
- ・富士山図 狩野探幽 一幅 寛文7年(1667) 静岡県立美術館

【本展における展覧会関連プログラム】

◎記念講演会「寛永文化—『きれい』の世界—」

講師：熊倉功夫 氏 MIHO MUSEUM館長

日時：3月4日(日) 14時～15時30分

会場：6階ホール

定員：100名

対象：一般

料金：700円(別途要入館料) 応募締切：2月11日(日)

「寛永の雅 江戸の宮廷文化と遠州・仁清・探幽」展 開催

▼会期：2018年2月14日（水）～4月8日（日）

▼主催：サントリー美術館、朝日新聞社

▼協賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス

▼会場：サントリー美術館

港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階

〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

▼開館時間：10時～18時

※金・土は20時まで開館。※いずれも入館は閉館の30分前まで

▼休館日：火曜日（ただし4月3日は18時まで開館）

※shop×cafèは会期中無休

▼入館料：一般1,300円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料

※20名様以上の団体は100円割引

▼前売：一般1,100円、大学・高校生800円

サントリー美術館、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット、イープラスにて取扱（各種プレイガイドは一般のみ販売）

※前売券の販売は2017年11月22日（水）から2018年2月13日（火）まで

※サントリー美術館受付での販売は2017年11月22日（水）から2018年1月28日（日）までの開館日

▼割引：

・HP割：ホームページ限定割引券提示で100円割引

・携帯割：携帯サイトの割引券画面提示で100円割引

・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引

※割引の併用はできません

▼点茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日時：2月15日（木）、3月1日（木）・15日（木）・29日（木）、4月5日（木）

11時30分～17時30分（入室は17時まで）

13時、14時、15時にはお点前があります。

会場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：1日限定50名（当日先着順）

点茶券：1,000円（別途要入館料）

※点茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、お一人様2枚まで）

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼ホームページ：<http://suntory.jp/SMA/>

▽次回展覧会

「ガレも愛した～清朝皇帝のガラス（仮称）」

2018年4月25日（水）～7月1日（日）

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕柴橋、〔広報〕光田

TEL：03-3479-8604 FAX：03-3479-8644

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2017年11月16日（木）から http://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以上